

松本市教育研修センターだより

No.20 令和5年 11 月 30 日

多様な方法による研修と学びのコミュニティの形成！

11 月に入り、一気に寒さが進み、冬の到来を感じるようになりました。「学びの秋」も終盤を迎え、今年度の研修も終わりに近づいてきました。

松本市では、参加型ワークショップや複数回シリーズの研修など、教職員が主体的に参加し、学びのコミュニティを形成できるよう、多様な方法による研修を企画・実施し、参加者自らが実感する学びとなることを目指しています。

この観点から企画・実施した研修の中から、今回は、11 月に実施された「ワークショップ型ミドルリーダー研修会Ⅲ」「算数数学授業づくりセミナーⅢ」の2つについてご報告します。

『自分たちの中にある答え』を引き出す ワークショップ型ミドルリーダー研修Ⅲ

ミドルリーダー研修の第三弾のテーマは「インクルーシブな教育環境づくりとミドルリーダーの役割」。それぞれ様々な個性をもった子どもたち全てが他を認め合いながら自分らしく学べる教室・学校づくりに、ミドルリーダーがどのようにかかわるかについて、松本大学の樋口宗先生を講師に迎え、学び合いました。

前半は「特別支援教育・インクルーシブな教育環境」について、基本概念を、樋口先生のお話を通して学びました。その中で樋口先生はミドルリーダーの果たすべき役割について「①適切な工夫を助言すること ②適切な工夫を（先生たちから）引き出すこと」のどちらでしょうか？」と問いかけました。答えは「もちろん②です」と樋口先生。



後半は、②の「先生たちから、状況改善の工夫の知恵を引き出す」ブレイン・ストーミングについて、具体的に体験しました。ブレイン・ストーミングに先立って、まずは丁寧にアイスブレーキングを行います。何を言っても受け止め合える安心できる関係性が、「アイディア出し」には欠かせないからです。



樋口先生の導きのもと、自己紹介を兼ねた楽しい活動で、先生方の笑顔がみるみるつながっていきます。

続いて、事例をもとに、「問題行動」を引き起こしていると考えられる「子どもにとっての『バリア』」について、様々な可能性を出し合います。

「どんな（くだらないと思うような）意見に対してもポジティブに反応すること」「いいこと、立派なことを言おうという考えを棄てること」といった、ルール、アドバイスの下で、先生方は楽しそうに、たくさんの「気づき」を積み上げていきました。

『支援会議』という重い空気になりがち。まずは明るい前向きな雰囲気、気軽にアイディアを出し合うこと。専門家の『知見』より、子どもをよく知っている先生方の中にこそ、状況改善の『答え』があることに気づいてほしい」と樋口先生は結ばれました。そのことを深く実感した研修となりました。

【参加者の感想から】

- ◆ 困り感を持っていそうな生徒を数人思い浮かべながら取り組みました。…何に困り感を感じているかを探り、同配慮ができるのか、多くの職員でアイディアを出し合うことの大切さを感じました。…学年会で取入れたいです。
- ◆ 配慮が必要な児童生徒はどこにもいるが、今までの経験のみに頼るのではなく、新しい発想でバリアを見つけていくことも大切だと思いました。…とても短い時間でしたが、内容が濃く、ブレイン・ストーミングも、そのやり方のコツがつかめた気がします。

「授業を通して、子どもの姿から学ぶ」

算数数学授業づくりセミナーⅢ

算数数学授業づくりセミナーの最終回となる第三弾のテーマは「わりあい難しいところかとても難しいと言われている『割合』の指導について、実際の授業を通して、子どもの姿から学ぼう」。開智小5年生の「割合」の導入場面を参観後、子どもの姿を語り合いながら、「本時の授業から割合の指導で大切にしたいこと」について、今回も松本大学の佐藤茂太郎先生を講師として迎え、学び合いました。また、この研修会には、松本市教育会の算数数学研究委員会のメンバー（小学校3名、中学校4名）も一緒に参加し、授業づくりについて研鑽を深めました。

授業者と佐藤先生の本時のねらいは、「子どもが元々もっているであろう割合の知識や感覚を引き出しながら、割合のイメージを持たせられるようにしたい」というものでした。

導入場面では、牛乳とミルメークを使い、「ミルメーク1袋を牛乳1本に入れたもの」と「ミルメーク1袋を牛乳1本の半分に入れたもの」とを比べると後者の方が、味が濃くなることなどから、牛乳の量が変わると味も変化していくことを日常生活の経験から確認しました。次に、用意したビーカーに色水を満杯にいれ、「今、色水は何%入っているかな」と問うと、子どもたちは「100%」と即座に答えました。次に2種類の大小のメスシリンダーに色水を満杯に入れ、「今、色水は何%入っているかな」と問うと、子どもたちはやはり「100%」と答えました。算数の授業では、まだ「%」を学習していないのですが、子どもたちは、日常生活の経験から「満杯は100%」と感覚的につかんでいました。



次に、ビーカーと2種類のメスシリンダーは、同じ100%でも入っている色水の量が違うことを確認した後、「入っている色水の量は違うのに、どれもなぜ100%といるのか」その理由について考え合いました。子どもたちは、友と相談しながら「容器の大きさが違って量は違うけど、容器の中にすべて満タンに入っているので100%といえる」など、自分の言葉でまとめていました。

終末では、メスシリンダーに入れる色水を半分にするなど量を変え、「50%」と答えた子どもたちにその理由を問いかけました。「メスシリンダーの半分というのは、満タンが100%なので、100%の半分だから50%だと思う」など、子どもたちは日常生活で体験している知識から、基準量と比較量との関係性に着目し、割合に対する自分なりのイメージを表現しました。

授業後の研修会では、本時の子どもの姿から「日常生活で学んでいること（%等）を活かす授業の大切さ・色水などの具体物を使ってイメージ化をはかるよさ」などが語られました。また、佐藤先生が提示された資料から、教科書会社により割合の「教材の扱い方」や「割合の求め方」の表現方法なども違うことを学び、子どもの実態に合わせた指導の在り方について考え合いました。



難しいと言われている「割合の指導」について、子どもの姿を通して、生活経験や子どもの持っている感覚を活かしながら授業づくりしていく大切さを改めて実感する機会となりました。

【参加者の感想から】

- ◆割合の難しいところを実際の授業を見せていただき、大変勉強になりました。色水を使った新鮮な操作活動は目からうろこでした。導入の部分として、子どもたちにとっても興味深い分かりやすいものでした。算数は楽しいおもしろいです。3回皆勤させていただきとてもうれしかったです。…心に残る楽しい時間でした。これからがんばります。
- ◆他の教科書との比較も大変重要だと思います。子どもたちがどこでひっかかるのかな、ということも含めて教材研究が必要であると思いました。5年生でも具体物を使ってイメージ化をはかることは大切だなと思いました。…算数が苦手と思っている私も、3回の研修はわかりやすく楽しかったです。ありがとうございました。
- ◆公開して下さった先生にはご負担をかけて大変だったと思うのですが、授業を見せていただいた上での研修は大変学ぶことの多い研修でした。…割合の指導は、ずっと中学校勤務なので経験はないのですが、教科書を見た限り、難しいと感じました。100%という%から割合を考えていく授業の提案を見せていただき、子どもたちが一つずつ概念を深めていく姿がとても印象的でした。